

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治		
Q & Aでわかる業種別法務 自治体	日本組織内弁護士協会（監修） 幸田 宏（編）他	中央経済社
SDGs時代のパートナーシップ 成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ	佐藤 真久（編著） 関 正雄（編著）他	学文社
自治体広報SNS活用－地域の魅力のを見つけ方・伝え方	清水将之（著）町田悠生子 （著）木田翔一郎（著）	第一法規
工 業		
荒廃する日本 これでもいいのかジャパン・インフラ	インフラ再生研究会(著)	日経BP
新しい上下水道事業再構築と産業化	山本哲三（編著） 佐藤裕弥（編著）	中央経済社
白 書		
公民連携白書 2019～2020 コミュニティの合意形成	東洋大学PPP研究センター	時事通信出版局
そ の 他		
中高年がひきこもる理由 臨床から生まれた回復へのプロセス	梶田 智彦（著）	青春出版社
外国人だけが知っている観光地ニッポン 47都道府県満足度ランキングから読み解く訪日客が好きな日本、感動した日本	ステファン・シャウエッカー（著）	大和書房

令和初の梅花シーズン

梅の花の季節がやってきました。白く小さな蕾が開き初め、近づくと甘い匂いがほんのりと香ります。今回は梅について調べてみたので、紹介しようと思います。

もともと、梅は中国から日本に伝わりました。庭木、盆栽として観賞され、平安時代以降は詩歌にも詠まれるようになりました。万葉集には梅に関する歌が数多くあり、梅花の歌三十二首の序文は、元号「令和」の由来となりました。



序文（抜粋）

“初春の令月にして、気淑く風和らぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。”

意味：初春正月の良い月で、気は良く風は穏やかである。

梅は鏡の前の白粉のように白く咲き、蘭は匂い袋のように香っている。

梅の実、梅干しや梅酒の材料として使われることが一般的ですが、古くは烏梅（うばい）という梅の燻製を漢方として用い、解熱や咳止めなどの治療にも使用されてきました。また“梅はその日の難逃れ”ということわざがあり、朝に梅干しを食べると、1日中災難から逃れることができると信じられていました。そのほかにも、梅の枝で作られた杖は邪気を払うとされ、新築の家に入居するときや神事の際に梅の杖で叩き、お清めする風習があったとされています。

さて、和歌山県内で梅の花と言えば、「南部梅林」が有名です。見頃の時期には見物客が集まり、付近は交通渋滞になるほど人気ですが、実は、和歌山市内にも梅の花を見ることが出来る隠れスポットがあります。例えば、秋葉山、四季の郷公園などがそうです。秋葉山は山頂あたりの広場、四季の郷公園はバラの温室付近に梅の花があり、見どころとなっています。また、本数は少ないですが、和歌山城でも梅の花を見ることができます。

まだまだ寒い日が続きますが、春の訪れを知らせてくれる梅の花を觀賞しに出かけてみようと思います。



※参考資料 世界の植物5、日本大百科全書、万葉集、広辞苑、ことわざ大辞典、和歌山市観光協会ホームページ